

児童減少のため、函館市立西小学校と函館市立弥生小学校が統合したのは今年4月のこと。そして、来る10月には解体工事の開始が予定されている弥生小学校函館市技手・小南武一が設計を手掛け、1938年に建てられた市の景観形成指定建築物はその歴史にビリオドを打ち、もうすぐ新たな校舎に生まれ変わろうとしている。統合新校舎は平成24年に完成・供用開始予定だ。

函館市が現在の校舎の補強(保存)ではなく、解体・新築を決定した理由は、

- コンクリート圧縮強度が低く中性化も進み、鉄筋には錆びも発生している。
- 地質調査による地盤の支持力度が低く、現状の基礎では過小である。

これらの理由から、補強工事は難しいと判断し、解体新築という結論に至つたのである。



弥生小学校の解体開始予定は十月

道 南 便 り

道南便りとは、道南に関するアレやコレやを紹介するアウトなコーナーです。

解体に向けて着々と準備が進んでいく中、函館市が下した解体への判断に疑問を呈した「弥生小学校を考える会」は今年7月、函館市に対して公開質問状を提出した。その内容は、第三者の公的機関による「弥生小学校校舎耐震診断性能評価及び判定書」の開示請求と、以下の質問に対する文書による公式回答。回答書は同類の疑義回答の慣例に則り、構造診断担当組織・担当した構造技術者氏名、同左一級建築士登録番号、同左本人自署署名及び押印、以上が明記された書類による回答を要求した。

①弥生小学校は函館市が保有する、第一級の歴史的・文化的建造物。解体を結論づけるに当たって、事前に文化庁・建築史専門家、構造家等から意見を聞いた上で判断・対処であったのか。

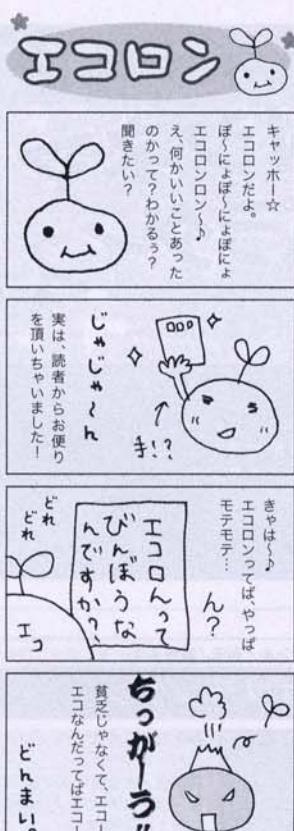
②関西大学建築保存工学の西澤英和准教授に見解を求めたところ、耐震診断結果に現れていた理解不能な数字。その算出根拠についての詳細な回答と、今後、構造専門家に対しご協力要請を乞う考え方の有無。

③「建物の支持地盤が脆く、現状建物のままでは基礎が小さいため杭の設置及び大幅な基礎改良工事が必要」との見解を示した根拠となる地盤説明書の開示。

④旧西小学校が3年間(弥生小学校の完成まで生徒が通う期間)安全であるという保証。同校舎の耐震診断調査の開示。

※内容は要約

現在、公開質問状への函館市の回答書に対する西澤准教授の見解を求めており、正式見解は「函館・弥生小学校の保存を考える」のサイトにて、改めて取り上げる予定。興味を持つ方は検索して経過を見守ってほしい。



署名運動やっています!!

「弥生小学校を考える会」では、弥生小学校校舎を保存するための署名を行っています。賛同する方は「函館・弥生小学校の保存を考える」のサイトより用紙を印刷し、署名の上、郵送して下さい。同サイトでは、弥生小学校に関する情報を随時更新しています。

署名の用紙はこちらから印刷

<http://yayoizaka.exblog.jp/>
(「弥生小学校の保存」で検索)

郵送先 〒040-0055 函館市船見町1-6
「弥生小学校を考える会」宛

問合せ yayoi@ing-lab.net

ることが出来れば、今後どのような建物の取り壊し問題が起きたとしても、函館全体を見据えた目でその問題を正視し正しく考え、偏った見解を持った人たちがバラバラに自分たちの思いだけを捲くし立てる、そんな保存運動ではない形での取り組みができると思っています。私はその為の土づくりをどうしてもやらなければという思いで今まできました。そしてその思いが、これまで突き動かしてくれた力でもありました。

(*)<http://yayoizaka.exblog.jp/>